

# 富山県統計書を用いた 感染症流行の分析

11710010 池田晋朔

## 目次

- I はじめに
- II 研究目的
- III 調査方法
- III 調査対象地域
- IV 調査結果
- V 考察

## はじめに 研究目的

- 地理学と感染症
- ・感染症の流行や対策は人間と切っても切れない関係である。例えば飯田（1965）は大阪市の赤痢について、対策の効果が弱い原因の1つは予防接種の有無だと推測した。また、地理学に関係する感染症についての学問には例えば疫学がある。
- 本研究の目的
- ・富山県統計書を用いて感染症の流行やそれをめぐる対応の効果がどれほどあったか、ない場合はこういった要因があったかを明らかにする。

## 調査方法

- ・富山県統計書を用いて感染症の統計を調べ、感染症の流行の記述と照らし合わせた。また、GISソフトMANDARAを用いて地図化した。対象となった年は1930年から1965年だが、1931年・1933年・1935年から1938年・1940年から1942年・1944年・1946年から1949年のものは存在しなかった。そのため、これらの年は除外した。

## 調査対象地域

- 富山県の変遷
- ・富山県で戦前から市制が施行されていたのは富山市と高岡市のみだった。そのほかの市は戦後になってからできたものである。
- ・富山県に限らず、戦後まで衛生業務は警察の管轄だった。保健所は1937年制定された保健所法を根拠に1938年から設置され始めた。

## ■具体的な感染症の様子

- ・調査対象期間以前 明治
- 明治から大正にかけて何度か感染症の流行が見られる。特に顕著なのがコレラで、1万人以上の死者が発生した年もある。
- 1880（明治13）年の伝染病予防規則によって天然痘・発疹チフス・ジフテリア・赤痢・腸チフス・コレラの6つが法定伝染病に指定される（ペスト・猩紅熱が1897（明治30）年に追加される）。
- この他、痘瘡が頻繁に流行していたという記述がある

年	病名	備考
1879	コレラ	死者1万数千
1885	天然痘	6千人の患者が発生
1886	コレラ	患者1万6千人、死者1万7百人
1887	天然痘・腸チフス	腸チフス患者2504人、死者457人・天然痘患者5224人、死者1145人
1888	腸チフス	患者1126人、死者378人
1892	天然痘	患者1135人、死者378人
1893	天然痘	患者4091人、死者999人
1894	赤痢	患者3千人、死者921人
1895	コレラ・赤痢	コレラ患者3451人、死者2696人・赤痢患者1953人、死者730人

『富山県史』より作成

#### ■具体的な感染症の様子

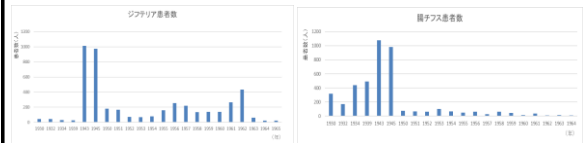
- 調査対象期間以前 大正・昭和
  - 1922（大正11）年、法定伝染病に流行性脳脊髄炎とパラチフスが追加される。
  - 1918（大正7）年にはスペイン風邪が流行した。

### 調査結果

- 戦前、戦中には戦争遂行のために医療保険や社会保険が整備された。しかし戦時中は感染症の患者が増えている。腸チフス・パラチフス・ジフテリアはこの時期の感染者数が最も多い。



### ジフテリア・腸チフス患者数



### 調査結果

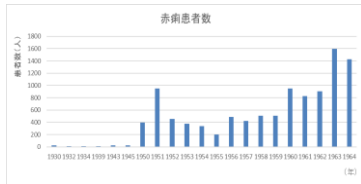
- 戦前、戦中に整備された医療保険や社会保険は戦後も引き継がれた。戦後すぐの時期に感染症の流行があったのではないかと予想したが、この時期のデータは存在しない。しかし、流行があったことについていくつか記述がある。

### 調査結果

- 戦後になると感染症は減少する傾向にあったが、赤痢は逆に増加し、患者数が最大となった年は1963年であった。1956年には富山市の小学校で赤痢が2度発生している。

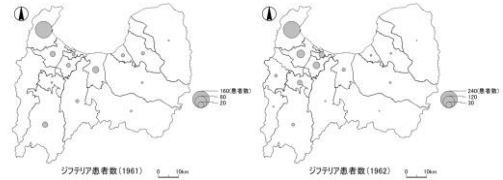


## 赤痢患者数



## 調査結果

- このほか、1961年と1962年にはジフテリアが流行しており、氷見市で多くの患者が発生している。



## 考察

- 明らかになったことの1つには、戦時中に感染症の流行があったが、これは戦争遂行のために衛生に力を入れた上で起こったということだ。衛生に関する政策に効果があまりなかったという予想と政策がなければさらに患者が増えていたという予想ができる。
- もう一つは戦後に流行した赤痢の特殊な傾向である。赤痢は戦後になってから患者数が増えており、そうなった理由は予想できなかった。患者が減らない理由であれば予防接種の有無があると思われる。

## おわりに

- 感染症対策は基本的には効果があったが、一方で効果があまりなかった例と思えるものが2つあった。戦時中や戦後の流行は恐らく戦争の影響だと思われ、戦争の影響の大きさがうかがえる。戦後の赤痢については納得できそうな理由がみつからなかったことが残念だった。

## 参考文献

- 飯田才一 1965. 赤痢の問題点と保菌者検索. 生活衛生13:16
- 笠原英彦 1999. 医療制度と医学教育行政の確立. 法学研究72:11-41.
- 黒部市史編集委員会編 (1988) 『黒部市史』 黒部市
- 小島和貴 2009. コレラ予防の「心得書」と長興専断. 法学研究82 (2) :279-303
- 立山町編 (1984) 『立山町史』 立山町
- 富山県編 (1981) 『富山県史 通史編V 近代 上』 富山県
- 富山県編 (1984) 『富山県史 通史編VI 近代 下』 富山県
- 富山県編 (1983) 『富山県史 通史編VII 現代』 富山県
- 富山市史編集委員会編 (1960) 『富山市史 第二巻』 富山市史編集委員会
- 富山市史編集委員会編 (1960) 『富山市史 第三巻』 富山市史編集委員会
- 富山市編 (1969) 『富山市史 第四巻』 富山市
- 福見秀雄 1989. 社会に於ける感染症の変貌. 環境感染4 (1) :1-4
- 宮尾績 1933. 明治七年夏上海ニ於テ流行セル「コレラ」ト其ノ防疫法ニ治療法に就キテ. 日本消化機病学会雑誌32 (7) :425-443.